

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007年度～2010年度

課題番号：19330177

研究課題名（和文） 近代日本人のキャリアデザインの形成と教育ジャーナリズム

研究課題名（英文） A Historical on a Modern Japanese Carrier Design Formation and Educational Journalism before the war

研究代表者

菅原 亮芳（SUGAWARA AKIYOSHI）

高崎商科大学・流通情報学部・教授

研究者番号：40348149

研究代表者の専門分野：教育学

科研費の分科・細目：4001

キーワード：（1）教育ジャーナリズム（2）雑誌メディア（3）キャリアデザイン

（4）ライフコース（5）学び

1. 研究計画の概要

（1）本研究は、明治中期から昭和戦前期を対象時期として、教育ジャーナリズムの中でも雑誌メディアが発信した情報を、近代日本人の自己発見、学校選択、職業選択、ライフコースの設定という角度から歴史的に検証することを目的とする。すなわち、上述した4つの観点などの選択にかかわる情報が、いかに発信され、どのように読者に届けられ、いかに定着してきたか、あるいはしなかったかなどを歴史的に明らかにする。このような作業を通して、近代日本人のキャリアデザイン形成において教育ジャーナリズムは、如何にかかわったのかを解明したい。

（2）これまで行ってきた「近代日本における教育情報の歴史的研究（科学研究費補助金・基盤B・平成15年度～平成18年度）の継続研究として、①キャリアデザイン形成への情報を収集し分析する、②対象とする雑誌メディアを拡大するという試みに挑戦するものである。

2. 研究の進捗状況

（1）共同研究者10名構成の「教育情報史研究会」を学内に設置し、年2～3回のペースで研究会を開催した。

（2）平成19年度は共同研究者全員で雑誌メディアなどの基礎的資料の収集を行った。

（3）平成20～21年度は各自分担した資料の内容的分析を行った。その成果は各研究者が所属する紀要や学会誌等に掲載されているが、ここでは主に日本教育学会を舞台に、共同研究報告を行ったものに限り記す。平成

20年度は雑誌『中学世界』（明治31・9刊行～昭和3・3月廃刊）を研究対象とし進学・独学・苦学という観点から歴史的に検討した。社会の学校化が進行する中で独学は苦学に内包される概念となること、1920年代には中学校卒業程度の学歴資格が資格社会化とリンクする形で急速に一般化・可視化したという新知見を得た。また明治期における職業案内書の歴史的研究を社会の学校化、資格社会の到来、都市化問題という観点から実証的に検証した。結果、①明治末年まで42冊の案内書が刊行され、種類は10種以上で多様化していたこと、②明治21～37年という時期は学歴・資格と職業が必要というトーンで説かれていたこと、それ以降は学歴と資格は重視されないむしろ都市化問題と関連して「自活」すなわち生計の維持が大切というトーンに移っていったこと、③また婦人向けに紹介された職業の範囲も男性と並ぶ職業主体として認められてきたらしいという新しい知見を得ることが出来た。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

共同研究者がそれぞれ雑誌メディアを分担し書誌的分析を行った点では順調に進展している。しかし記事の内容分析においては、その情報が膨大であるために、十分に進展しているとは言い難い。現在は、最終報告書の作成に向けて原稿化の準備をしている。

4. 今後の研究の推進方策

研究会における分担発表さらに2回に及び学会報告を通じて、次の点を確認することができた。

(1) 雑誌と並んで不定期刊行物である職業案内書も重要な対象文献であり、今後の蒐集と分析作業が不可欠であること。

(2) 教育雑誌に止まらず近代日本人一般のキャリアデザイン形成を解明するには、成人向け雑誌メディア及び婦人向け雑誌を広くに分析する必要があること。

(3) 現在に近づくにくれ、歴史的視点として、「社会の学校化」「資格社会化の到来」「都市化問題」をより鮮明に加える必要があること。

(4) 調査対象が拡大するにつれ、出版社の性格、発行部数、発行人、執筆者のキャリアや読者層の判定等のさらなる調査が(多くの困難が予想されるとは言え)必要である。

以上の点に基づき、本研究はこれまでの研究の継承・発展として進めてゆく必要があると結論した。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

① 菅原亮芳、「近代日本人のキャリアデザイン形成と教育ジャーナリズム(1)－研究計画・「大日本国民中学会」・『新国民』(その1)－」高崎商科大学紀要、第22号、39-72頁、2007年、査読有

② 下山寿子、「雑誌『職業指導』にあらわれた『異常青少年』の職業指導情報の研究(1)－「論説」欄の記事を中心に－」、高崎商科大学紀要、第23号、159-174頁、2008年、査読有

③ 八木美保子、「雑誌『職業指導』にあらわれた学校職業指導実践の研究(1)－1928年～1940年－」、高崎商科大学紀要、第23号、197-207頁、2008年、査読有

④ 吉野剛弘、「受験準備教育機関としての旧制中学校の補習科－東京府立中学校を事例として－」、慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要、第66号、13-26頁、2008年、査読有

⑤ 三上敦史、「雑誌『中学世界』にみる独学情報」、愛知教育大学研究報告、第58輯(教育科学編)、115-123頁、2008年、査読無

⑥ 菅原亮芳、「近代日本人のキャリアデザイン形成と教育ジャーナリズム(2)－雑誌『中学世界』にあらわれた苦学情報－」、高崎商科大学紀要、第24号、73-78頁、2009年、査読有

〔学会発表〕(計2件)

① 菅原亮芳・小熊伸一・三上敦史・吉野剛弘、「雑誌『中学世界』にあらわれた受験・進学・独学・苦学情報」、日本教育学会第67回大会、2008年8月30日、佛教大学

② 菅原亮芳・下山寿子・八木美保子、「明治期における職業案内書の研究」、日本教育学会第68回大会、2009年9月20日、東京大学